

人材育成の課題

情報通信研究機構

ナショナルサイバートレーニングセンター

園田 道夫

やってること

- セキュリティ・キャンプ (IPA)
 - 22才以下学生対象のアゴアシ付き合宿研修
 - 学生を刺激する。3日間ものづくりも
- SECCON (JNSA)
 - オープンな国際CTF。特別企画地方大会も開催
 - 学生のコンテンツ作成、運営によるワークショップ
 - 女性限定ワークショップ
 - 若者も大人も刺激する。国際大会+企画の自由さが売り
- SecHack365 (NICT)
 - 25才以下学生、社会人対象の1年間アイデアソン+ハッカソン
 - プログラミング好き、セキュリティ好きの融合
- CYDER演習 (NICT)
 - IRトレーニング。オンライン学習、大規模環境のリアリティ。
- サイバーコロッセオ (NICT)
 - オリパラ向けトレーニング。

現状認識：足りない人材

- セキュリティの基礎的なところをおさえていて、ITのものづくりや運用などの本業に活かせる人材
- 予算に関わり、セキュリティがわかる人材
- セキュリティの専門家
- セキュリティを教える先生

既存の人材を引っ張り込む

- コンテストやCTFなどイベントを通じて興味を持ってもらう
 - 作問、企画、運営で経験を積むというアプローチも
- →プログラマーが興味を持つようなイベントを企画開催する

教育機関の輩出力を増強する

- 魅力あるコンテンツを増やす
- 先生を増やす

先生を増やす

- 先生の負担を減らす（減らして欲しい）
- 自己研鑽の機会を作る（制度化？）
- 教えやすい環境を提供する（サイバーレンジ）
- セキュリティのコンテンツを作る